

平成 30 年度第 2 回地区推進会議 会議録

1. 開催日時：平成 30 年 11 月 15 日(木) 午後 6 時開始

2. 開催場所：市川市役所仮本庁舎 4 階第 1・2 委員会室

3. 出席者

各地区委員 : 26 名

社会福祉協議会：萩原常務理事、鶴ヶ谷事務局長、山崎事務局次長 ほか

地域支えあい課：杉山課長、飯島主幹、近藤主幹 ほか

福祉政策課 : 若菜課長、白井主幹 ほか

4. 議事

(1) 地域活動の担い手の確保と育成について

5. 配布資料

会議次第

資料 1 地域活動の担い手の確保と育成について

席次表

| 区 分 | 内 容 |
|---------------|--|
| 福祉政策課 白井主幹 | <p>本日はお忙しい中、地区推進会議にご出席いただき、ありがとうございます。本日の進行を担当させていただきます福祉政策課の白井でございます。よろしくお願いいたします。本日もご出席いただいている委員の方は、お配りした席次表の通りとなります。続きまして、本日出席しております、事務局職員の紹介をさせていただきます。</p> <p>(事務局職員・社会福祉協議会・コミュニティワーカー紹介)</p> <p>なお、本日は地域活動について現場を見学したいとのことで、千葉商科大学から和田教授・齊藤専任講師・学生のみなさんも出席しておりますので報告申し上げます。よろしくお願いいたします。</p> <p>(資料確認)</p> <p>議事録を作成する都合上、ご発言いただく際は、お近くのハンドマイクをお使いいただき、地区及びお名前をお伝え下さいますようお願いいたします。また、ご発言が終わりましたら、お手数ですがマイクのスイッチをお切り下さいますよう併せてお願いいたします。</p> <p>それではまず、会議に入る前に、それでは、福祉政策課長の若菜より挨拶をさせていただきます。</p> |
| 福祉政策課 若菜課長 | <p>いつも大変お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>高齢化率が21%を超えると超高齢社会と言われます。最近のニュースで、もっとも若い沖縄県が2018年3月で21.1%に突入し、全国の都道府県がすべて21%に到達し、超高齢社会になったと取り上げられていました。市川市は2018年8月末に21%に到達し、千葉県の26.4%、全国の28%と比べると、まだ若いほうではありますが、2025年に向けてますます高齢化は進んでいきます。そうした中で、今回議題としている「地域活動の担い手の確保と育成」については、ますますクローズアップされる問題ではないかと思えます。忌憚ないご意見を頂戴いたしたく、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、前回会議でいただいた意見に関する報告となりますが、前回、地域団体と場を持つ民間団体をつなぐ「地域活動応援制度」について説明させていただきましたところ、既存のいきいきセンターをはじめとする公共施設をもっと積極的に活用できないかのご意見をいただいております。公民館等につきましては、地域支えあい課が地区社協の方々の要望をもとに事前予約をさせていただいております。いきいきセンターについては60歳以上の方限定の施設となっているので、全年齢の方が利用できる施設ではありませんが、今後は、地域活</p> |

動応援制度の仕組みの中で、民間団体の協力のもと、より多くの活動の場を提供できればと考えております。

本日も皆さまからのご意見を頂戴して、より良い政策につなげたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

福祉政策課
白井主幹

それでは、会議次第1の「地域活動の担い手の確保と育成について」、福祉政策課 正木より趣旨説明をさせていただきます。

福祉政策課
正木主査

(「資料1 地域活動の担い手の確保と育成について」、趣旨と意見交換の視点を説明)

福祉政策課
白井主幹

ただ今、事務局より本日のテーマ設定の趣旨と、どのような内容についてお話・ご意見をいただきたいかを説明させていただきましたが、まず、「質問①：「担い手」に関し、具体的にどのような現状があり、その結果どのような影響がでていますか？」というテーマについてです。いくつかの地区・団体のお話をうかがいたいと思っておりますが、地区活動計画記載内容の補足説明でも、それ以外のことでもかまいませんので、地区や団体の現状をお話いただける方がいらっしゃいましたら、お願いします。

石崎委員

真間地区の石崎です。真間地区は2002年に地域ケア拠点を開所して、16年たっています。60歳だった方は76歳になっているわけで当然相談員の高齢化は進んでいます。ただ、そうした中でも相談員・協力員の中に50代の若手の方に入っていることによって、サロンでのハロウィーンのイベント・親子でゴスペル・赤ちゃんのお母さんのハンドマッサージなど、私たちが考えつかなかったような新しい発想がでてきて、これがニーズに応えることとなり、若い人たちを引きつけている現状があります。また、これまで広報誌を紙ベースで作ってきて、回覧・掲示してきましたが、若手の方から、台風やインフルエンザによるサロンの中止をLINEで伝えるなどSNSを利用するのはどうかといったことなど、私たちの世代では考えられないような発想を色々と言ってくさっています。若手の方が少しずつ広がっているとはいえ、大々的に広がるのはまだまだ先であり、根っこの部分を広げるためのいくつかの取組みについては、次のテーマで説明したいと思います。

阿部委員

行徳地区の阿部です。行徳地区では7年間福祉関係が進んでおらず、スタートして6年目になります。サロンは今まで3つでしたが、今度3つ増えて6つになります。地域で「福祉まつり」を2回やりましたが、今年は名前を「行徳ふれあい祭り」にかえて、小学校の体育

館と校庭を借りて行いました。これまで、中学校の校長先生に生徒を行事に参加させてもらえないかと頼みましたがなかなか認めてもらえず、ただ、クラブ関係に頼むと子どもたちが OK なら来てくれるということがありました。今回の行徳ふれあいまつりでは、フットベースの親子に参加してもらって、お祭りに来た子どもたちとフットベースを楽しんでもらいました。またサロン以外では、市の危機管理課に段ボールによるトイレ作りなど防災体験をしてもらったり、ヤクルトに胃腸の問題をとりあげてヤクルト 400 を無料提供してもらったり、社協に車いす体験をしてもらったりしました。その他、子どもも親も高齢者も楽しめるよう、100 円で焼きそば・フランクフルト・お好み焼き・バーベキューを食べられるようにしました。参加者は 1 回目 100 人、2 回目 150 人でしたが、今回は 200 人を超えました。だんだん地域に浸透してきています。ただ、学校は 3 ヶ月前に頼んで施設開放が OK してくれないと借りられないという難点があるので、行政に手助けしてもらえたらと思います。また、今回の行徳ふれあいまつりでは、福祉委員ではない各自治会の知り合いで 40 代・50 代の方に協力してもらいました。行徳地区でも福祉委員は平均で 70 代ですから、若い人を取り込んでいく必要があります。40 代・50 代よりもさらに若い世代にも意識づけをしていきたいので、広く知れ渡るようにしていきたいと思っています。ただ、行徳地区の駅前には自治会がなくパンフレットが配れないという難点があります。お店に頼んでも貼ってくれたのは 2 店だけでしたし、商店会同士も仲良くなか話が進まないの、駅前の住民を活性化することはできていません。次のステップを考えていくというのが現状です。

高本委員

南行徳地区の高本です。南行徳地区は、広範囲であるにもかかわらず、かつて拠点は 1 ヶ所しかありませんでした。しかし、塩浜地区で「まちかど健康サロン」を移管する形で、平成 28 年に南行徳地区の第二の拠点として開設することができました。地域の皆さん・自治会・管理組合などのご協力をいただきながら、相談員 30 名くらい、月の来所者が 1,000 人前後ということで、とても有効に活用させていただいています。今日はその拠点のリーダーである程塚さんにオブザーバーとして参加していただいているので、参考までに説明させていただきます。

程塚さん
(オブザーバー)

程塚です。今お話しいただきましたとおり、市川市で 15 番目の拠点として平成 28 年に開所しました。とても良い場所で、いただけたことを非常にうれしく思っており、有効活用していかなければいけないと日々努力しています。月に 1,000 人来るようになったのは、サロン活動がしっかり地についていたからだと思います。塩浜地区では、コー

ラス部が月に4回毎回50人くらい、太極拳が月に4回毎回20人くらい、そういう活動が7つありますので、それが非常に多く方の来所につながっていると思います。今後も「ほっとスペース」という名称のとおりほっとする場所にしていきたいと思っています。この拠点は週7日9時30分～4時30分で運営しています。それは、従来の「まちかど健康サロン」が月末の月曜日しか休みにしておらず、一緒に活動していた時に拠点だけが土日休みだと地域の皆さんに浸透しないという思いで、はじめからそのような開所日・開所時間としています。スタッフもこれを前提で了解のもと入ってもらい、常時2人体制、1日4人、月に4・5回くらいで、総勢26・7人でまわしています。今は企画部・修繕部など役割担当を作って、その中でいいアイデアをだしてもらっています。また、真間地区での取組みを参考にして、「ほっとギャラリー」を作り、9月から地域の皆さんの作品を飾っています。まだ3年目なので、他地区の活動を勉強させていただいて、これから私たちがどう動いていけばいいかの参考にさせていただきたいと思っています。

福祉政策課
白井主幹

ありがとうございました。3地区から活動状況を含めて現状のお話をいただきました。高齢化が進む中で、若い方を取り込んでいくため、広報活動やイベントなど色々と努力されている話をうかがいました。そして、新たな課題として、団体のつなぎ・場所の確保・SNSの活用などがあることもうかがいました。取組状況も含めてお話をいただいているところもありますが、質問②に移らせていただきます。「質問②：「担い手」の確保・育成のため、地区・団体で取り組んでいることはありますか？または、取り組む予定のものはありますか？」というテーマ設定ですが、お話しただけのところがありましたら、お願いします。

原木委員

信篤・二俣地区の原木です。担い手に関しては、長い目で見て原石をみがいていくことが大事ではないかということで、私たちは防災訓練に的を絞って取組みを進めています。去年までは中学生が20数名参加してくれ、避難所の設立等で大きな力になってくれ、とても助かりました。今年は12月9日に行うこととしており、今日幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校とまわってきました。高等学校からは、先生方も積極的に参加させたい、高校も色々と予定があるので前もって提出する高校の年間スケジュールをもとに防災訓練の日時を決めてもらいたいという話をいただきました。また、幼稚園・保育園からも、コピーは自分たちで行って父兄に渡しますなど、力強い言葉をいただきました。何名来ていただけるかわかりませんが、小さいお子さんが親と一緒に来ていただいて、ボランティアの大切さやボランテ

ィアとはこういうことだということを勉強してもらうなど、20年後30年後に向けてこつこつとやっていきたいと思っています。また、20代の方は忙しい方が多いと思いますので、30代・40代くらいのPTA役員の方など、それから50代から60代前半くらいのPTA役員のOB・OGの方などにターゲットを絞って、アンテナをはって情報収集しながらアプローチしていきたいと思っています。今の担い手としては、若い方も含めて新たに2名加わりましたので、うまくまわっています。

人見委員

国分地区では毎年秋口に地区社協主催で「ふれあいの集い」を開催しています。踊り・歌など芸達者な方に出演いただき、地区の高齢の方々に楽しんでいただく集いです。この「ふれあいの集い」を行うにあたり地区連の自治会の方、約50名、に早朝よりお集り願ひ小学校の体育館内でテーブル、椅子などのセッティングをして頂いています。このような活動の中で日頃の社協活動に多少なりとも参加してみようかなと考えてくださる人がいてくれたらとの願ひもこの集い活動には含まれています。但し現状はこのような人は現れません。また、最近グランドゴルフも行っていますが、これも楽しんでおられる高齢者、全員ではありませんがプレーを終了しましたらすぐに帰る。準備も後片付けも何もしないという方が多いです。これらの現状をどう打開すれば担い手の人が入ってもらえるのか難しい現状です。

日光委員

曾谷地区で昨年の地区社協のてるぼサロンまつりの際と、今年の曾谷公民館の文化祭の際にアンケートを実施しました。できるだけ若い世代の方にも来てもらうため企画を準備した結果、子育て中の若い親御さんたちから高齢者までまんべんなく来ていただいて、アンケートも比較的若い人たちのご意見もうかがうことができました。担い手の関連では、「何か困ったことがあった時に誰かに助けられましたか」「その時にどう思いましたか」「もしそういう人がいたらどうしますか」という質問をしました。その結果を見ると、誰でも困っている人がいれば手を差し伸べたいという心はあるということがわかりました。ただ、大震災など非常時には心が開くのですが、平常時にも心を開いてもらって、地域に目を向け活動に参加してもらおうということはなかなか難しいことだと思います。もしかしたら、お互いさま事業をすることが、1つの呼び水になるのではないかと考えています。はじめの1歩を踏み出すことが難しいので、事業として始めてみて、「こういう活動もあるのだ」「こういう活動なら自分にもできる」と思ってもらって気軽に参加してもらえたらと思っています。お互いさま事業の進め方も、仕事をただ振り分けるということではあまり楽しいものではなく続いていかないと思います。地区社協内部で議論がはじまっているわけではないので、個人的な考えですが、ボランティアサロンの

ような形で展開していければと考えています。そのためには、場所という問題があって、昨年地区社協で見学に行ったところは、大きな福祉施設の中で広いスペースを確保することができていて、色々な活動をしていました。そういうところは例外的だとは思いますが、拠点は大きな意味があると思いました。

淡路委員

大柏地区では、何を行っているのか地域住民に見えるように活動しています。それぞれの行事を33の自治会を通して徹底して地域住民に告知して、お手伝いできる方がいたらということで展開していますが、なかなか担い手の申し出がありませんので、苦勞しています。

本柳委員

宮久保・下貝塚地区の本柳です。宮久保・下貝塚地区ではあいさつ運動を実施しています。今まで5回ほど地域で集まりをもっています。福祉委員の担当者を中心として、地域で顔の見える運動をやろうということで、毎月第1月曜日の早朝に、11ヶ所で、100名ほどの方に参加いただいて、実施しています。学校・PTAにも呼びかけをして、参加してもらっています。地域の若い家族・お年寄りが互いに知り合う学区を作りたいということで、特に、子どもたちを不審者・交通事故から守りたいという希望を持つ方の参加募集を行っています。このあいさつ運動については、市川よみうり新聞9月15日に紹介されています。

また、「お互いさま広場」という、地域の子どもたちから大人まで楽しめる催しを実施しています。5回目となる今年度は11月11日に、学校・歯科医師会・保健センター・高齢者サポートセンター・福祉関係の業者・行政の協力を得て、宮久保小学校のグラウンドと体育館を借りて実施しました。災害の体験学習として、地震の体験・煙の体験・AEDの体験・水消火器による初期消火・通報訓練を行いました。また、専門家による健康相談、サロン活動、福祉機器・介護用品の展示、特売、文化イベント、体操、地区社協の活動発表、わたあめ・ポップコーンの販売、非常食の試食会、ビンゴゲームなどを行いました。広く参加者を募集し、多くの方に参加いただくことが、担い手の確保につながると思っています。

溝田委員

宮久保・下貝塚地区の溝田です。本柳会長からあいさつ運動とお互いさま広場の話がありましたが、「寄り合い処」という地区社協の活動拠点が宮久保1丁目にあつて、ここを一般地域住民の方にもっと知ってもらい利用してもらおうということで、3年前からこの「寄り合い処」で、イベント・催し物を行っています。花を展示しての即売会、盆栽教室、映画鑑賞、ゲームで梨の皮むき大会・ダーツ大会・子どもたちの参加を期待してのクリスマスツリー作りなど、色々と計画して

石崎委員

います。担い手としては福祉委員を中心としたメンバーで対応しています。もっと、この「寄り合い処」を活性化して地域の交流を図っていきたいと思っています。

真間地区の石崎です。担い手確保への取組みとしては、私たちも皆さまが発表なさったことと同じような方策をとってきました。若い層との接点を探したいということで、2014年から2018年にかけて、防災に関するアンケートと困った時のアンケートの2つを行いました。防災のアンケートでは、7割の方が防災訓練に参加したことがないというショッキングなデータが集まりました。困った時のアンケートのアンケートでは、若い方の回答の中で、多世代交流をしたい・声かけや見守りができる・土日だったら雪かきも手伝える、という答えもありまして、そこに私は一縷の望みをかけています。そして、私たちのしかけが若い方に届いていなかったと思いました。自治会や地区社協での掲示板・回覧・広報誌による告知は大事なものではありませんが、見る人は見るけれども見ない人は見ません。また、学校の子どもたちとの交流は盛んに行っているけれども、その親御さんと関わることができていませんでした。そこで、子どもたちの親御さんを意識して動くなかで、新しい関係性を見つけられないかと思っていて、例えば、学校は4月になると年間行事がでますので、それをもらってどこかで関わることができないかを見ています。こちらから日にちを指定するよりも、学校が計画している行事に関わらせてもらうほうが、引き受けていただきやすいです。災害時の引き取り訓練では、学校区の自治会長に参加していただいたうえで、自治会ごとに自治会長が自己紹介し、その自治会の子どもたちに立っていただくと、それを見ていた親御さんは自分の住んでいるところの自治会長を認識することができます。3・4年前から行っていますが、帰りがけに自治会の方が声をかけると、子どもや親御さんも「いつもご苦労様です。」と声をかけてくれるようになりました。そしてその延長で、地区の防災協議会でも、PTAの方・パパの会の方・消防団の方と面識をもつようになりました。

真間地区社協が苦手だった子どもと親へのアプローチですが、楽しくないと来てくれませんので、楽しいイベントを2つ行っています。1つ目はラジオ体操です。今年で4回目ですが、1週間で1,000人の方が参加してくれました。毎年来る子もいるし、出勤前のお父さんが子供と参加してくれるようになりました。2つ目はすいか割り大会です。これは1つの自治会が40年続けていたものですが、高齢化が進んで続けられなくなってしまったため、6つの自治会連合で昨年からはじめました。子ども200人・保護者200人・地域のお手伝いの方60人くらいですいか割りを楽しみました。楽しければ子どもも親もついでにきます。割ったすいかを太陽の下テーブルに置いていたら、若い方が自

宅からテントを持ってきて貸してくれ、すいかに直射日光が当たらないように配慮してくれました。その方を中心に、次の会からはパパの会や消防団、地域の若手が企画にも参加させてほしいと言っていたので、私たちとしてはやりがいのある結果がでたと思っています。来年からとなりますが、1つの望みがでたと思っています。

また、サロンに来る方が固定化しています。私は、サロンに来る方に、周りのちょっと助けの必要な方も誘って連れてきてほしいとお願いしているのですが、なかなかうまくいきませんでした。しかし、今年の演芸会では、ある方が周りの方に声をかけて10人くらい連れてきてくれました。そして、その方たちから楽しかったと言ってもらえたことが誘ってくれた方にとって成功体験になっていて、来年また声をかけてみようということになっています。

それから、お互いさま事業に向けた模索についてですが、社協が目標に掲げているので、やらなければいけないという義務感を持っています。高齢化率35%という超超高齢化社会がもう目の前ですが、今まで住んでいたところで余生を送りたいというのがみんなの気持ちだと思います。介護保険や公的サービスではまかなえないことをやりたい・やらなければならないという中で、「おせっかいおじさん、おばさん」を募集しましたし、協力員30名くらいでお互いさま事業で何をしようかという会議を今年3回もちました。1回目では、自分がやれることは何か・自分が具合悪くなったら何をしてほしいかをポストイットに色分けして書いていきました。これを見ると、買い物・ゴミ捨て・話し相手・病院通院の介助などがでてきていて、需要と供給が一致していました。そして、夏には2人1組で買い物ごっこ・ゴミ捨てごっこなどごっこ遊びをしてみました。これがどんなに大変なことかわかりましたが、できるかなという思いもあるところです。また、秋には、サポート・支援事業を行っている市川ユアアイ協会の方に、こういう活動をするにあたって大事な点、例えば線引きをする・ルールを作る・お金をどうするか、などについて簡単な研修をしていただきました。

また、千葉商科大学の有志の方が「よろず隊」を6月に立ち上げて、大学生による買い物支援・電球交換・草取りなどを2月から始めています。私たちは若い学生の方にはかないませんので、何ができるかを考えました。草取りや電球交換は難しいけれども、学生さんは遠くから来ている方もいるから隣のゴミ捨てなら手伝えるかしらといった話がでてきました。そこで、専門家の支援事業、学生さんの事業、地域の事業とすみ分けをして、私たちは、本当に地域でしかできないことをメニューとして掲げ、細々と小さくやり続けようと思っています。無理なくできることが大事で、そのためにはルール作りをどうするか、立ち上げにあたっては何に注意したらいいかということがでて

| | |
|------------------|---|
| 福祉政策課 白井主幹 | <p>きます。お互いさま事業が地域で必要とされているという感覚は皆さんお持ちだと思います。どのように1歩目を踏み出すのか、注意する点などを示していただいたうえで、いつかはスタートしたいという思いでいます。</p> |
| 原木委員 | <p>ありがとうございます。色々な取組みのお話をいただきました。手伝いたいけれども主にはなりたくない方が多いですとか、気持ちはあるけれども参加につながらないなどのお話があったと思いますが、原木委員から若い方を取り込むことができたというお話をいただきました。成功の秘訣のようなものがありましたら、お話いただきたいと思います。</p> |
| 福祉政策課 白井主幹 | <p>高谷中の生徒の参加につきましては、私と高谷中の校長先生の高校が同じだったことがわかり、コミュニケーションがよくとれたということがあります。その先生が後任に引き継ぐと言ってくれ、今も続いております。</p> |
| 三部委員 | <p>ありがとうございます。そういったつながりもきっかけになるということですね。相談員が2人増えたというお話もあったかと思いますが、それはいかがでしょうか。若い方に入っていたいただいた秘訣はあったのでしょうか。</p> |
| 福祉政策課 白井主幹 | <p>信篤・二俣の三部です。相談員は最初4名でスタートしたのですが、お1人の方が体調を崩されまして、2年ほど3名で行ってまいりました。しかし、その体制だと用事がある際などはきびしく、2名の方にお声がけをして快くお引き受けいただき、4月から楽しく5名体制でやっております。</p> <p>若い方に入っていたいただいた経緯については、補導員として一緒に活動されていた方がやめられ、その方が明るくて気持ちのよい方だったものですから、再三お誘いし、引き受けていただいたということです。公民館の職員の方からも来所してくださる方にも評判の良い方です。</p> |
| 程塚さん (オプザーバー) | <p>日頃から関わられている中で適任の方がいらっしゃって、粘り強くお願いしたということですね。ありがとうございます。</p> |
| | <p>塩浜地区は、小中高校がすぐそばにすべてそろっていて、学校とのつながりが密です。神戸の事件があってから、毎日地元の高齢者が7・8人で下校誘導をしています。子どもの人数がかなり少ないので、全員の顔を知っているくらい関係になっています。また、自治</p> |

会の夏祭りや年末の餅つきに中学生・高校生がボランティアに来てくれ、「餅つきをはじめました」と話してくれていました。そういった地域性・つながりが何年も続いていますので、事例として報告させていただきます。

福祉政策課
白井主幹

さまざま事例を聞かせていただき、ありがとうございました。それでは時間の関係もありますので、質問3に移っていきたく思います。今までのお話の中でも課題がでてきているとは思いますが、あらためて「担い手」の確保・育成に関し、行政（市）にどのような支援をしてほしいですか？>という質問になりますが、これについてご意見お話等いただける方がいらっしゃいましたら、お願いします。

戸田委員

市川第二地区社協の戸田です。新田・平田地区の民生委員をしています。私は八中の学校運営協議会委員もしていますが、この頃、学校では地域との連携を目的とした取組みをしています。八中も、コミュニティ・スクールとしての機能を重視する学校、というのを目指す学校像の1つとしてあげています。学校運営協議会と地域学校協働本部の両輪で地域との連携を持ちながら子どもたちを育てていこう、学校を運営していこうという趣旨で、毎回色々と話し合っています。例えば、市川第二地区社協では、先日ふれあいセンターまつりがありましたが、チラシを地区にある保育園・幼稚園・小学校・中学校に配りましたところ、当日は、子どもと小さなお子さんに付き添って親御さんが、かなりの人数来てくれまして、地域の運営状況を見てくれました。これは、学校との連携が功を奏したものでして、学校と連携することが担い手を増やす1つの方法だと思います。そこで、私の提案ですが、この会議には自治会長さんや福祉委員の方々だけが集まっていますが、学校側としても校長先生や教育関係者の方々には地域と連携しようという気持ちでいらっしゃいますので、この会議に校長先生・教育関係者の方々・教育委員会の方々も参加いただいて、地域の現状を知っていただくのがいいのではないかと思います。そうすることで、学校側も地域も一体感がでて、チームワークが良くなるのではないかと、お互いにとっていいのではないかと思います。ちなみに、八中ブロックでは先日、広島・長崎に千羽鶴を送るプロジェクトを行いました。各小学校・中学校で小さな折り鶴を折って、地区社協でもサロンの人たちにも折ってもらって、市役所に届けました。良い取組みだったのではないかと思います。

それから2つ質問させていただきたいです。1つ目は、行徳で自治会がないという話を聞きましたが、民生委員は自治会から推薦ということになっているので、どのように選んでいるのでしょうか。2つ目は相談員の人数について、市川第二地区社協は月～金曜日1日1名で

5名しかいませんが、他の地区では30名くらいのところもあるとお聞きします。人数はどのように決めているのでしょうか。

地域支えあい課
鈴木副主幹

地域支えあい課の鈴木です。行徳の自治会がないエリアについては、旧道のほうの他の地区の自治会から推薦していただく対応としています。

市川市社会
福祉協議会
鶴ヶ谷
事務局長

社協の鶴ヶ谷です。各地域ケアの相談員の人数についてお答えします。地域ケアは地区社協が母体となって進めています。各地区の経緯があり、地域ケアの設置時期がそれぞれ異なっておりますので、相談員の人数は地区社協さんにおまかせしています。少ない人数でまわすところがあれば、皆さんに知ってもらうために多人数で対応しているところもあり、様々でございますので、私どもとしては一律何名以上・何名以下などの設定はしていません。

天野委員

市川第一地区相談員の天野です。相談員は各町会から1人ずつ、町会長が選ぶという形で、合計10人です。個室になっているので1人というわけにはいかず、2人体制にしています。

最近車椅子の貸出しが多くなり、自分の足で歩ける体づくりが何より大切だと思っており、月に2回リズム体操を始めました。15人くらい集まって行っていますが、足の悪いおばあちゃんも毎回休みなしで来てくださっていて、張り合いがあります。2人体制でサロンのことも責任をもって対応しているところです。

永井委員

市というか学校への要望になります。市川第一地区では高齢の独り住まいの方を対象にふれあい会食会を開催していて例年小学校に子どもたちに来てもらう協力をお願いしていましたが、練習時間が取れないとの理由で断られて来てくれなくなってしまいました。また、ラジオ体操についても、運動会では子どもが壇上で体操をしていたので、地区社協の体操でも子どもたちに来てもらって壇上で体操をしてほしいかとお願ひしたのですが、校長先生が命ずることはできないということで断られてしまいました。将来の担い手を確保するためには、小中学生・高校生に福祉の場面に来てもらって「独り住まいの高齢者がこんなにいるんだ」といった福祉の実態を学んでもらうことが非常に大事だと思います。そうすればいじめもなくなるのではないかと思います。教育委員会には協力を願ひしたいと思います。

また、地区社協や自治会がイベント等を行うのは、担い手の獲得という狙いもあるわけですが、イベントに来て楽しんで帰ってもらうだけではなく、そこで情報を獲得しておく、担い手候補を見つけ出すということが必要だと思います。私の自治会はマンションですが、約800

世帯の中でサポート要員として200人くらいが登録してくれていて、その中には若い方もいます。全部のイベントに協力してもらうわけではありませんが、いずれ役員を担ってくれるだろうと思っています。色々な場面を活用して、名前・住所・電話番号といった情報を教えてもらう、良い方を見つけ出しておく、ということが大事だと思います。

市川第一地区では民生委員は1人足りませんが、福祉委員は60人弱いますし、あまり少ないという感じはしていません。先般千葉商科大学で行われた災害危機管理講座でも若い人が来ないという話がありましたが、仕事もあるし、なかなか来てもらうのは難しいと思います。サロンも平日の昼間が多いので、私もなかなか行けていません。防災などでも、いざという時には若い人も絶対来てくれると思います。資料を読んでいたら、団塊の世代をもっと活用するべきと書いてあって、そういう考えも参考にして、あまり若い人にこだわらなくてもよいのではと思います。

山崎委員

市川市ボランティア協会は、色々なグループをつなげる役を担っており、先日は学校教育にITが導入されることから、ITインストラクターをつなげることについて教育委員会の方と話をしましたので、そういったところがきっかけになるのではないかと思います。

ボランティア協会もボランティアさんが高齢化しています。市民まつりも今までは大勢で参加していましたが、今年は35名くらいでした。人を集めるため、私たちも人脈を通じて一本釣りをしています。先日は、市の職員を退職した方にボランティア協会の理事や個人会員になっていただきました。市にお願いしたいこととして、市職員特に市内に住む職員の方には、退職の際に、ボランティアをするように指導・啓発してもらいたく、よろしくお願いします。

石崎委員

お互いさま事業に向けてのバックアップをお願いしたいです。立ち上げのノウハウ、先進市の事例、保険の対応、有料・無料・券の発行など事業を行うにあたっての留意点が記載されたガイドブックの作成を早急をお願いします。

また、今日の会議では、防災・教育・福祉の話がこの場にでてきました。地域福祉計画を最初に作った時には、市川市の各部局の人が集まった中で、地域の課題を洗いざらい出し出しました。だから、地域福祉計画には市の色々な課題が含まれています。そうした中で、市川市は地域ケアシステムを立ち上げて地域福祉の体制を作りました。防災の面では、地域ごとに協議会を立ち上げてくださと言われてきました。教育の面では、38年前からコミュニティ・スクールとあっていて、色々な施策がでてきて、またコミュニティ・スクールに戻って、

地域の皆さんよろしくと言っています。ただ、説明だけして帰ってしまい、その後せっかく良い議論が行われているのに、聞いていただけないことも多いです。防災拠点協議会のほうは熱心に私たちの議論に力を貸してくれたので、私たちもやる気になりました。地域福祉のほうも皆さんの頑張りがあり、良い議論ができるようになりました。次は教育だと思います。新たなコミュニティ・スクールは、教育委員会の方にこの会議に出席していただき、私たちの活動を理解してもらうところから始めていただきたいと思います。この3つの組織は地域と密接に関わりあっているので、いつかの機会でお越しただいて、お互いに意見交換する機会を作っていただきたいと思います。

福祉政策課
白井主幹

ありがとうございました。いただいたご意見を整理してできるところから進めていきたいと思っています。

最後に、先ほど石崎委員のお話でも言及がありましたが、千葉商科大学のほうから何かコメント等がありましたらお願いします。

千葉商科大学
森田さん
(オブザーバー)

こんばんは。私は千葉商科大学人間社会学部2年生で森田と申します。先ほど名前があがったが「よろず隊」という地域のボランティア団体をさせていただいています。

よろず隊とは地域の役に立ちたい・誰かの役に立ちたいと思った学生が集まって自発的に作られた団体で、地域のニーズに対して自分たちは何ができるかという視点で活動内容を考え、実際に活動しています。また、活動を行う学生も単発で終わっては意味がないので、継続していくための仕組みづくりも学生が考えて決定し、活動しながら、でてきた課題を改善していっています。サービス内容としては学生でもできる訪問型生活支援サービスとして、買い物代行・パソコン操作・電球交換など簡単なサービスを行っています。サービスの中でも、通院介助などは専門的な知識が必要で学生が誰でもできるサービスではないので、地域の方や高齢者サポートセンターの方などと連携しながら、自分たちができる活動をさせていただいています。メンバーは15名で、現時点の実績としては、9件で売上は32,166円です。また、学生にもメリット・やりがいを感じてもらうため、謝礼金として、1時間当たり1,000円を売上から配っています。

継続的に行っていくためにも、まずは生活支援サービスを安定したものにしていき、今後は、地域の方々がコミュニケーションを図れ、交流できるイベントなども行って地域に貢献していきたいと思っています。

千葉商科大学
齊藤専任講師

貴重な話を聞かせていただき、ありがとうございました。地域の皆さまが抱えていらっしゃる課題は学ぶところが多く、うかがっていて

(オブザーバー)

気づかされたことも多かったです。先に説明した森田君は私のゼミ生で、有償ボランティア、将来的には人件費も払えるソーシャルビジネスとして継続的にまわっていく仕組みを作りたいということでしたので、そういった面からサポートをしています。また、一個人としては別の地域で一般社団法人を立ち上げ、生活支援サービスを行っています。その中で感じていること、大学人として研究の中から見出したことを申し上げさせていただきますと、先ほど何名かの方が、楽しさを提供しなければならない、来たくなるような場づくりをしなければならないとおっしゃっていましたが、まさにそのとおりだと思います。また、一個人として別地域で行っているのは高齢者が高齢者を支えるサービスで、学生が行っているのは若い人が高齢者などを支えるサービスですが、両者を比べると、担い手となる高齢者が求めるものと、担い手となる若い人が求めるものは明らかに違います。これまでの資料などを見ても、壮年層から高齢者の方が生活支援サービスの担い手になるにあたって求めるものは仲間づくり、ネットワークづくり、自らの知見・経験をフィードバックした社会貢献が非常に大きくなっています。実際に行っていても、「謝礼金なんていいんだよ、貢献できることが非常にありがたい」とおっしゃいます。一方、若い人が担い手活動に参画するにあたって求めるものは、成長の機会、就職活動等のための実績づくり、ある程度の収入という方が多いです。ですので、若い人たちを巻き込みたい場合と壮年層以上の方を巻き込みたい場合には、団体側が提供する誘因・インセンティブも変える必要があるのではないか、と話をお聞きして思いました。

また、辛口なコメントになってしまうかもしれませんが、担い手を確保したいという時に団体側の都合での「動員」という感覚が相手に伝わってしまうとうまくいかなくなってしまうと思います。若い人たちでも高齢者でも、担い手になりたいという方々は、利用者のために貢献したいという意欲にあふれています。だからこそ、そういう方々たちを大切にする、そういった方々のモチベーションを高めるような誘因提供ということが必要になるのだらうと思います。

福祉政策課
白井主幹

若い担い手の立場、研究者の立場から、色々ご意見をいただき、ありがとうございました。引き続き、行政としても関わりをもっていければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

最後に福祉政策課課長から挨拶をさせていただきます。

福祉政策課
若菜課長

皆さん、長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。話をうかがわせていただいて、とても参考になりました。

楽しいイベントを行うことによって地域にお住まいの方々の参加を促し、それが仲間づくりの機会になって、地域のコミュニティができ

て、住み続けたいくなる街づくりにつながるのではないかと思います。

地域の取り組みでは、餅つき・梨の皮むき大会など、色々なアイデアをうかがうことができました。行政の支援としては、ガイドブックの作成、学校・教育関係者の参加、市職員退職者へのボランティア活動の促しなどをうかがいました。持ち帰らせていただいて検討させていただきます。

本日は有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。

福祉政策課
白井主幹

以上で本日の地区推進会議は終了いたします。次回会議は3月下旬頃の開催を予定しており、次年度以降の会議運営についてあらためて確認させていただくほか、本日同様にテーマを決めて意見交換を行う予定です。テーマについてご意見がありましたら、できれば今月中に事務局までご連絡いただきたく、よろしく願いいたします。

以上になります。長時間にわたり、ありがとうございました。